

エネルギーを 見る眼

ガスシステム改革の必要性

●競争的な電力市場のためにも不可欠



松村敏弘

東京大学社会科学研究所教授

1965年生まれ。88年東京大学経済学部卒。博士（経済学、東京大学）。大阪大学社会経済研究所助手、東京工業大学社会理工学研究科助教を経て現職。専門は産業組織、公共経済

電力システム改革に続きガスシステム改革の議論が始まる。スタート時期は電力の議論から遅れたが、必ずしも悪いことではない。電力システム改革が十分に議論された後で、基本路線は踏襲し、ガス特有の部分のみを調整するのも効率的である。さらに、LNGの過半は発電事業者が消費しているし、都市ガス消費に含まれるコジェネの消費分の一部も電力用と考えられる。従ってガスシステム改革は電力改革と密接に関係する。電気事業者が保有するLNG施設も含めて、総合的にルールを設計する必要があるガスシステム改革は、電力システム改革の基本方針が明らかになり、詳細制度設計が進むこのタイミングの方が適切とも言える。

（ガス市場の特殊性）

以前「自分の産業は特殊である」と主張するのは、既得権益保護をもくろむ者の常套句だと指摘した。ガスが特殊であるという議論も、この観点から安易に認めるべきではない。

とはいえ、ガス事業の市場構造が電力と大きく違う点はある。まず事業者数が違い、格差も大きい。一般電気事業者は10社。200社を超える都市ガス事業者数とは比較にならない。規模も沖縄電力と比べてもはるかに小規模な事業者も多い。大企業である沖縄電力ですら、電力システム改革の文脈で一定の配慮がなされることを考えれば、

ガス市場で一律の制度設計は現実的でない。事業の形態も、自前のLNG基地を持つ事業者、その事業者と導管網は接続しているが基地を持たない事業者、孤立した導管網にローリーで供給を受ける事業者とさまざまで、この差は電気事業者の電源構成の違いとは比較にならない。これらの点は制度改革の中で適切に考慮されるはずだ。

（ガス市場の方が競争的か）

電気との違いとしてガスの方が厳しい競争にさらされているとの主張もある。確かに新規参入者のシェアはガス市場の方が大きかった。自前のLNG基地を持ち、ガス事業者よりも多くのLNGを調達する一般電気事業者が存在したからである。電気事業者などの強力な競争相手がいる点では、ガス市場は電力市場より競争的かもしれない。

しかし、潜在的な競争者は強力でも、自前のLNG基地を所有して市場に参入できる事業者数は限られる。技術の問題もあるが、それ以上に規模の経済性の問題がある。40万kWの火力発電所を建設するとして、この容量は全体の電力市場の規模からみれば小さく、孤立した系統を除けば、小さなマーケットシェアをとるだけで最も効率的な設備を建設し参入できる。一方ガス市場でLNG基地を建設して参入し、大手ガス事業者並みに効率的に運用するには、かなりのマーケットシェアを

とる必要がある。この結果、ガス市場は電力に比べてはるかに参入障壁が高い。だからこそ現在の競争者は必然的に「強力」なのだ。

（脆弱な競争基盤）

現実には日本の都市ガス市場の競争基盤は電力と比して脆弱な点の方が多い。まず細いとはいえ北海道から九州まで高圧送電網がつながっている電力と比べ、東京・福岡間のような需要稠密^{ちようみつ}地帯ですら高圧導管網がつながっていない。このためガス間競争は、貧弱な電力間競争よりもさらに期待できない。電力の卸電力取引所（JEPX）に当たる取引市場も存在せず、常時バックアップに当たるものも制度化されていない。電力市場で存在するアグリゲーション（高圧一括受電し、マンションの各住戸に電力を販売する事業）も存在しない。電力と異なり、規制で許されていないからである。

一般電気事業者は確かに強力な競争者かもしれない。しかしこの強力だが少数しかいない競争者にトラブルが生じガス供給への余力を失うか、この競争者と暗黙のうちに協調して競争を抑制すれば、たちまち競争が機能しなくなる。震災前に東の電力会社が「ガスアンドパワーを目指さない」と明言し、震災直後、同地域のガス会社社長がガス・電力拡販への消極的な発言をするのを見て、阿吽^{あうん}の呼吸での市場分割の

懸念を抱いた者は少なくないだろう。西の電力会社の役員が料金審査の席で、電力供給を優先するため既存のガス小売り契約は更新しないと発言するのを聞いて、ガス市場の競争への懸念を抱いたのは私ひとりだろうか。電気、ガス、石油事業者が総合エネルギー企業としてお互い切磋琢磨^{せつさたくま}する世界が理想で、それをサポートするエネルギー市場の制度設計は重要だが、これが機能しないリスクを（とりわけガス市場では）無視できない。

（ガスシステム改革の必要性）

ガスのシステム改革では、小売り自由化は当然として、規制無き独占を防ぐための競争基盤の整備が最重要である。インフラ整備は長期的に重要だがすぐにはできない。LNG基地の開放だけでなく、常時バックアップに当たる卸供給制度の整備、アグリゲーションの解禁などを通じた競争基盤の整備、その結果、大規模設備を持たなくとも参入できる市場の設計が、今回ガスのシステム改革で最も重要である。

さらにガス卸市場の整備は、機動的なガス火力発電による電力市場への参入をより容易にする。競争的な電力市場のためにも不可欠な改革でもある。ガスシステム改革は、電力・ガスの縦割の発想を廃し、総合エネルギー市場改革にもつなげる視点を常に持つべきである。